

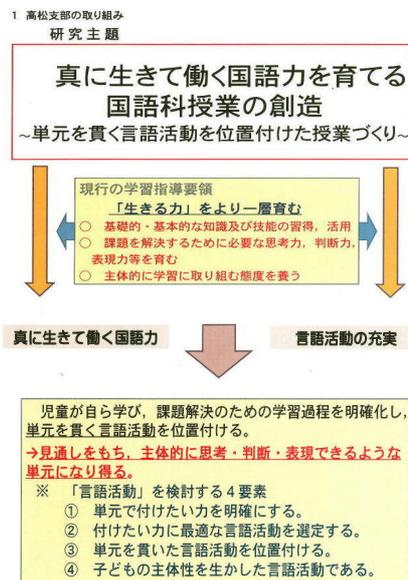
真に生きて働く国語力を育てる国語科授業の創造

－単元を貫く言語活動を位置付けた授業づくり－

香川県高松市 高松市立前田小学校 三井 智史

1 はじめに ～テーマについての考え方～

「単元を貫く言語活動」を位置付けることで、子どもたちが見通しをもち、主体的に思考・判断・表現できるような単元になり得ると考える。本単元では、「単元を貫く言語活動」として『ミニポスター作り』に取り組んだ。そして、自分なりの主題を盛り込んだ『ミニポスター作り』を行うために、読みを深めるための「副教材文」を用いた読み取りと、「並行読書」を取り入れた。これらを「主教材文」とつないで読むことにより、言葉や文相互の関連を学ぶだけでなく、自分なりの主題を意識しながら作品と向き合い、文章全体や作品間のつながりをとらえることで、より確かな自分の主題を盛り込んだ『ミニポスター』になるのではないかと考え、本単元で実践を試みた。



2 実践

(1) つけたい力の明確化

つけたい力は、「同じ題材の作品を比べて読み、自分で優れた叙述に気付き、考えをまとめること。」と「複数の本や文章を比べて読むことを通して、違いを発見する喜びを知ったり、知識や情報を豊かにしたりするとともに、多くの本や文章などを読むことの意義や楽しさを実感すること。」とした。

学習指導要領の国語科の「目標」は、次の通りである。

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を高め国語を尊重する態度を育てる。

ここには、表現力と理解力とを育成すること、互いの立場や考えを尊重し、伝え合う力を高めること、言語を手がかりとしながら論理的に思考する力や豊かに想像する力、言語感覚を養うこと等を国語科が担っていることを示している。物語文読解においては、文章を通して作品から受け取ったことを豊かに想像し膨らませる学習や、どのような言葉を選んで表現するのがふさわしいかを考える学習も重視することによって、この目標に近付いていけるだろう。

前述の学習指導要領・国語科の内容には、「C読むこと」の指導事項が以下のように述べられている。

「効果的な読み方に関する指導事項」は、目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫することをしめしている。

「自分の考えの形成及び交流に関する指導事項」は自分の考えを形成することについて、低学年では、文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと、中学年では、目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすることを示している。

また、交流について、低学年では、文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと、中学年では、文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと、高学年では、本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることを示している。

「目的に応じた読書に関する指導事項」は、目的に応じて、本や文章を選んで読むことを示している。

低学年では、楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと、中学年では、目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと、高学年では、目的に応じて、複数の本

や文章などを選んで比べて読むことを示している。

これらを踏まえ、本単元でつけたい力を身につけるために、以下のような単元構成で取り組んだ。

学習指導計画（全13時間）

次 時	学 習 活 動	評 価 規 準 〈評価方法〉	
第 一 次	1 ○ 出来事に注意しながら、 教材文「ヒロシマのうた」を 通読し、初発の感想をもつと ともに、『ミニポスター作り』 をしようという見通しを持つ。	㊦ 学習の見通しをもち、出来事にサイド ラインを付けながら教材文を読もうとし ている。 〈教科書〉	
	2 ○ 学習計画を立てる。	㊦ 「時」「出来事」「登場人物の心の動き」 を読み取る手がかりとなる言葉を見つけ ている。 〈ノート〉	
	3 ○ 一の場面から、「時」「出来 4 事」「登場人物の心の動き」 を読み取る。	㊦ 「時」「出来事」「登場人物の心の動き」 を表す言葉を手がかりに、場面の情景と 心情を読み取っている。 〈ノート〉	
	5 ○ 二の場面から、「時」「出来 6 事」「登場人物の心の動き」 を読み取る。	㊦ 「時」「出来事」「登場人物の心の動き」 を表す言葉を手がかりに、場面の情景と 心情を読み取っている。 〈ノート〉	
	7 ○ 三の場面から、「時」「出来 8 事」「登場人物の心の動き」 を読み取る。	㊦ 「時」「出来事」「登場人物の心の動き」 を表す言葉を手がかりに、場面の情景と 心情を読み取っている。 〈ノート〉	
	9 ○ 作品が自分に強く語りかけ てきたことを相互につなぎ、 自分なりの作品の主題を考え る。	㊦ 各場面で自分に強く語りかけてきたこ とを書き、自分なりの作品の主題をまと めている。 〈ノート〉	
	第 二 次	10 ○ 「ヒロシマのうた」から読 み取った主題を「伸ちゃんの 三輪車」に重ねて話し合い、 自分の感想をもつ。	㊦ 自分の主題観を他作品につなぎ、作品 の一部を膨らませた意図を話し合っ たり、感想をもったりしている。 〈ノート〉
	11 ○ 「ヒロシマのうた」から読 み取った主題を「戦争で死ん だ兵士のこと」に重ねて話し 合い、自分の感想をもつ。	㊦ 自分の主題観を他作品につなぎ、作品 の一部を膨らませた意図を話し合っ たり、感想をもったりしている。 〈ノート〉	
	第 三 次	12 ○ 「平和」「生きる」「親子 愛」等、「ヒロシマのうた」 から読み取った主題とつなが る本を読む。	㊦ 「平和」「生きる」「親子愛」等を主題 とした本に興味をもち、進んで本を選ば うとしている。 〈観察〉
13 ○ 自分の読んだ本のミニポ スターを作り、学習のまとめを する。	㊦ 自分に最も強く語りかけてきた一文と 作品の主題をつなぎながら本のミニポ スターを作っている。 〈ミニポスター〉		

単元を通して自分の主題を深める

(2) 言語活動の選定

つけたい力である「同じ題材の作品を比べて読み、自分で優れた叙述に気付き、考えをまとめ

ること。」と「複数の本や文章を比べて読むことで、違いを発見する喜びを知ったり、知識や情報を豊かにしたりすることで、多くの本や文章などを読むことの意義や楽しさを実感すること。」を習得させるために、「副教材文」を用いた集団での読解指導と「並行読書」による個の読書指導を取り入れた。

まず、主教材文を通して、戦争や原爆がもたらした悲劇一人間の悲惨な死、生き残った者が背負う過酷な運命、それに伴う悲しみや苦しみーを見つめ、物語が強く語りかけてきたことから自分なりに主題をまとめ、「平和」とは？「生きる」とは？を問いながら考えを深めることができると考えた。

本教材文は、時を軸に3つの場面に分けられる。物語を読み取る基礎・基本として、「時」「出来事」「登場人物の心の動き」に注目して、内容の大体をつかむことができる。生みの母親も育ての母親も気遣うヒロ子の姿から、親子の絆が読み取れるだろう。自分の背負った運命を受け入れたヒロ子の言動から、強くたくましい生きざまが読み取れるだろう。

そこで、『ヒロシマのうた』では、時系列で出来事の展開や登場人物の心情の変化を読み取り、作品が最も強く語りかけてきたことを手がかりにして自分なりに主題を探る学習をすることとした。読み取った主題「平和」「生きる」「親子愛」等を受けて、副教材文『伸ちゃんの三輪車』『戦争で死んだ兵士のこと』を扱うことで、主題を明確にした読みに迫ることとした。

『伸ちゃんの三輪車』は、『ヒロシマのうた』と同じ広島原爆投下を題材としている。広島平和記念資料館の展示の説明を用いて「時」と「出来事」を中心に物語化した文章を読むこととした。そうすることにより、「登場人物の心の動き」については想像を膨らませる必然性が生まれ、『ヒロシマのうた』で読み取った主題をもとにして伸ちゃんやお父さんの思いを想像し表現することで、同じ題材の違った作品で主題を重ねた読みを学ばせることが可能になると考えた。

『戦争で死んだ兵士のこと』は、戦争の絵本であるが、戦争そのものをほとんど描いていない。兵士の人生に関わる「時」と「出来事」が繰り返され、「登場人物の心の動き」は想像を膨らませて読み深めなければならない。

冒頭の場面で、一人の兵士の死を描き、『ヒロシマのうた』の時の流れとは逆に、兵士の人生を誕生までさかのぼっていき、最後に再び死の場面に戻る。その兵士は、両親の愛情に包まれながらごく普通の人生を送り、幸せをつかみかけていた。『ヒロシマのうた』で我が子を案じながら死にゆく母のような一般の民衆、『伸ちゃんの三輪車』で命を落とした3人の子や悔やみ続けた父親だけでなく、戦場へ赴いた兵士にも、それぞれ当たり前の幸せがあったのだということに気付かされる。その時その時の兵士の心情を直接表現することなく、時と出来事を淡々と述べているだけの行間に、『ヒロシマのうた』で読み取った主題をもとにして兵士の心情に思いを馳せ表現することで、広島原爆とは違った題材でも主題を重ねて読み、自分なりの主題観を確立させていきたいと考えた。

こうして自分なりの主題観を心にもち、複数の教材文の読みを重ねることで、自分の選んだ作品を自分の主題に引き寄せて読むことも可能になる。単なる多読、乱読でなく、主題という軸でつながった読みつなぎができ、児童に学習の効果が期待できると考える。

以上のような、単元で3つの教材文を読み取ることと並行して、同様の主題を感じるであろう図書を読み重ねることを通して、児童に育っていく力のイメージを、次ページの資料1のように図式化した。



分に強く語りかけてきたことをつないで整理し、「物語が自分に最も強く語りかけてきたこと」＝自分なりの主題を視覚的に表した。そこで同じような主題をつかんだ児童で小グループを作り、次時からはグループで交流して深められるようにした。

## 第2次

資料3は、10/13時の『伸ちゃんの三輪車』を小グループで交流した記録用紙である。

### 資料3 『伸ちゃんの三輪車』の小グループ対話記録用紙(話し合いメモ)

「伸ちゃんの三輪車」

広島市和歌山資料館・主な展示の説明より

①鉄谷伸一ちゃんは三才でした。

②薬局をかねた自宅で、お父さん、お母さん、おばあさん、お姉さんの路子ちゃん、生まれてまもない妹の洋子ちゃんと六人でくらししていました。

③伸ちゃんの家は、原爆の爆風によって一瞬でこわれてしまいました。

④お父さんは、たおれた家の下からはいだし、台所にいたお母さんを助けたのがやっとでした。

⑤伸ちゃんは、家の前で三輪車に乗って遊んでいるときに被爆しました。

⑥家の外でたおれている伸ちゃんをかかえて逃げたのは、外からもどってきたおばあさんです。

⑦全身にやけどを負った伸ちゃんは、「水、水。」というめまがら、その夜、亡くなりました。

⑧家の中にいた路子ちゃんと洋子ちゃんは、その後の火災で焼かれ、骨だけが翌日見つかりました。

⑨お父さんは、亡くなった伸ちゃんを焼く気になれず、いっしょに遊んでいて死んだ近所の女の子と手をつながせ、焼けこげた三輪車と共に庭に埋葬しました。

⑩その後、被爆四十一年目にお墓に移す決心をしてほり起こし、おばあさんの葬式をしました。

天國に帰っても元気がない。本当は元気がない。悲しいかなお父さんは伸ちゃんを元気にしてあげたい。

ここで、単元のある1時間について詳しく紹介し、検証する。

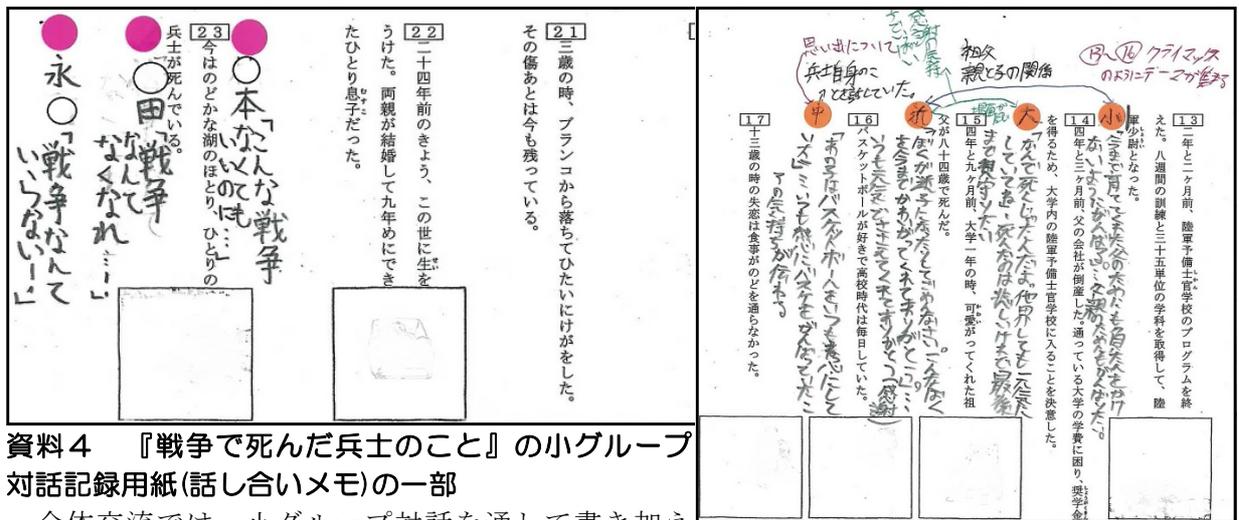
11/13時では、主教材文『ヒロシマのうた』から読み取った主題を『戦争で死んだ兵士のこと』に重ねて話し合い、自分の感想をもつ活動を行った。

まず、前々時で、それまでの読み取りを振り返って、『ヒロシマのうた』の主題を確認した。その後、『戦争で死んだ兵士のこと』の絵本の読み聞かせを聞いた。児童は、「時」をさかのぼりながら「時」と「出来事」が淡々と繰り返されていくだけなのに胸が痛くなるような作品展開から衝撃を受けた。

自分の考えをもつ段階では、「時」と「出来事」を手がかりにし、簡単に場面分けをすることにより、自分なりの主題観を表す文を書き加えるのに適切な部分を決め、教材文を貼ったノートに会話文で書き加えた。自力で文が思い浮かばない児童には、主題にふさわしい言葉を助言し、全員が自分なりに文を書き加えられるよう支援した。

その後、互いの書き加えた文と考え、感想を交流する学び合いの場を設定した。小グループ対話では、自分なりの主題観で書き加えた文と感想を伝え合える場とした。自分の書き加えた文や考えに対する友達の感想、あるいは、互いの書き加えた文を相互につなぎながら意見や感想を述べ合った。そうすることによって、主題観に根ざした意見や感想が出し合われ、つないだ話し合いを深められることへつながった。話し合いの過程が分かりやすく残るよう、記録者を中心に「話し合いメモ」を作るための支援もした。





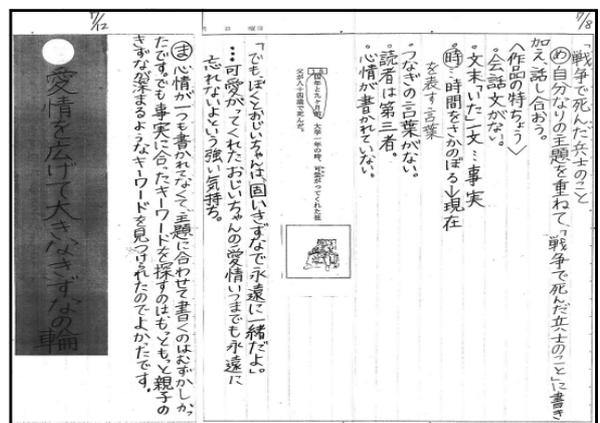
資料4 『戦争で死んだ兵士のこと』の小グループ対話記録用紙(話し合いメモ)の一部

全体交流では、小グループ対話を通して書き加えた文が紹介され、感想の交換によって主題に対する考えがどのように深まっていったかを中心にした発言もあった。

最後に、交流を通して考えた自分なりの主題観や感想をノートにまとめた。



資料5 全体交流の板書



資料6 11/13時の児童のノート

(3) 子どもの主体性を生かした単元を貫いた言語活動の位置付け

本単元を中心となる言語活動は、「ミニポスター作り」であった。その過程で、基礎的基本的な知識・技能の活用が必要となる。

現行の学習指導要領では、「言語活動の充実」を強調しており、各領域において「(1)指導事項」を指導する際の具体的な学習活動を「(2)言語活動例」として挙げている。〔第5学年及び第6学年〕「C読むこと」の「(2)言語活動例」には、「エ 本を読んで推薦の文章を書くこと」とあり、次のような解説がされている。

この言語活動については、単元導入時(1/13時)で児童に紹介した。それは、

- 単元を貫く言語活動として、児童の意欲や目的意識を持続させるため。
- 様々な図書を並行読書していく必然性を感じさせるため。

である。

本単元では、共通した3つの教材文と、個々が選んで読む複数の図書と出合うが、ミニポスター作りでは、主教材文『ヒロシマのうた』と、自分にとって最も「強く語りかけてきたこと」がはっきりとしており、主題観が明確に重なった図書1冊を取り上げることにした。また、ミニポスターに入れる内容は、作品の題名と、作品が最も「強く語りかけてきたこと」のもとになる文の引用と、主題に絞った。

このように、単元を貫く存在として言語活動を位置付けることにより、常にゴールを見据えて学習に取り組めるとともに、なるだけ多くの図書を読んだり、教材文と読んだ本を結び付けたりすることができる考えた。

ミニポスター作りは初めての活動だったので、児童がもっと戸惑ったりもっと時間がかかったりするのではないかと心配していたが、副教材文や並行読書での読みつなぎの効果が表れ、全員

が時間内に自分の満足できるミニポスター(資料7参照)を作り上げることができた。  
本単元における学習活動は、以下の通りである。

### 第3次

11・12/13時は、これまでの学習を主題でつないだ「ミニポスター作り」に取り組んだ。3つの教材文を読みつないで確かなものとなった自分なりの主題を重ねるのに最もふさわしい作品を並行読書した図書から選び、作品の題名と、作品が最も「強く語りかけてきたこと」のもとになる文の引用と、主題を入れたポスターにした。



資料7 児童の作ったミニポスター

### 3 単元の実践をふり返って

主教材文からつかんだ主題をもとに様々な作品と向き合うことで、文章全体や作品間のつながりをとらえることができた。そして、自分なりの主題を重ねるのに最もふさわしい作品を並行読書した中から選び、題名と、作品が最も強く語りかけてきたことにつながる文と、主題を入れたミニポスターを作ることができた。

つけたい力を明確にし、それを習得させるのにぴったり合う単元を貫く言語活動を位置付け、単元全体を通してその言語活動に向けて進んでいく単元を構成することで、国語科の基礎的・基本的な技能となる力を付けるとともに、

- 読解力や思考力・表現力の向上
- 言語活動に必要な力の獲得
- 読書生活の充実
- 平和・人権意識の高揚
- 生き方づくり

にもつながっていったように思う。

今後も、児童の側に立って教材の特徴やそれを生かす単元を貫く言語活動、育てたい力に応じた単元構成を行い、確かな指導を行っていきたい。